

柳井医療センター だより

第 5 号

〈発行所〉
国立病院機構
柳井医療センター
〈発行責任者〉
住元 了



院 長 住元 了



いつも柳井医療センターの病院運営にご理解ご支援賜り誠に有り難うございます。先だってアクティブ柳井で開催された医師会主催の市民公開講座「柳井の急病に」に於いてパネリストとして当院の腹部救急の現状と問題点についてご報告させていただきました。会場にお越しいただいた多くの市民の皆様方から当院のことがよくわかったとか、柳井医療センターは地域住民のために地道に頑張っているんですねとか 様々な いい意味での発見とかお褒めのお言葉をいただき感謝申し上げます。

さて、平成27年度を迎え新たになった外来診察の状況についてご案内いたします。まず呼吸器内科です。週2回（火、金）の開始となりました。呼吸器内科は山口県(山口大学)ではまだ歴史の浅い診療科ですが広島大学では戦時中の竹原市大久野島の毒ガス工場に従事する人の肺障害の研究でも有名ですが歴史の古い診療科です。慢性閉塞性肺疾患、肺癌、アレルギー性肺炎を始め様々な種類の肺炎、胸膜の疾患などが専門領域です。整形外科は週1回から週2回（水、木）と回数が増えました、循環器科内科の診察も週1回から週2回（月、水）と回数が増えました。一方今まで外来診察のみでありました腎臓内科は2名の先生が常勤採用で赴任されました。泌尿器科ともどもご利用いただければと思っています。そのほか皮膚科も毎週1回、糖尿病内分泌、肝胆膵内科、消化管内視鏡科も週1回広大病院より支援していただいております。今後とも神経内科、消化器外科ともども宜しく願い申し上げます。

最後に柳井医療圏の人口は年々減少しております。また少子高齢化も同時進行です。今後医療需要は益々減っていく中、当院としましては地域医療に貢献すべく最小限の医療資源で最大限の良質な医療を提供できるよう尽力して参りますので益々のご支援宜しく願い申し上げます。

理 念

- 一 良質の医療を提供します
- 一 素晴らしい療養環境を提供します
- 一 患者満足度の向上に努めます
- 一 職員満足度の向上に努めます

院内の感染対策に関する活動と院外の感染対策 チーム実践支援事業について

感染管理認定看護師 岡村 昭子

感染対策の基本的な考え方は、急性期病院、慢性期病院、施設、在宅では同じですが、急性期病院と同レベルの感染対策が慢性期病院や施設、在宅に絶対に必要かという、必ずしもそうではありません。対象の免疫状態によっても、具体的な対策は異なってきます。また、施設の規模や財源も考慮する必要があります。たとえば、当院のように慢性期の病院では比較的病状は安定していて、病原体を保菌していても何とか耐えられる患者が多く入院しています。1000床規模の大学病院と19床以下のクリニックでは具体的な感染対策は異なります。自施設に合わせた感染対策が重要になってきます。当院では、ICT (Infection Control Team) 委員の感染に関する知識の向上をめざして感染対策学習会を定期的に行っています。



感染対策学習会の様子



環境ラウンドでATP測定中

感染対策学習会で、委員がテーマ毎に講師をし、学習したことを人に伝えることで自分の知識の向上に役立っています。また、委員会活動として、会議の時間を利用した環境ラウンドを行っています。実際はたくさんのシチュエーションでの時間帯でのラウンドが必要かと思いますが、時間確保の問題から会議の時間を活用して行っています。

院外の活動として、平成26年度・27年度に山口県の事業として“個々の医療機関において実践的な感染制御のための取り組みを進めるため、医療機関にアドバイザー（感染管理認定看護師）を派遣し、実践活動の支援を行い、圏域のニーズに応じ、実践現場で役立つ研修を行う”ことを目的に『感染制御チーム実践支援事業』が行われています。平成26年度は行政の協力もあり4名の感染管理認定看護師で柳井圏域2医療施設、1施設のラウンドと研修会を企画し実施させていただきました。この事業は2年間の予定で、今年度も昨年度と同様にラウンドの実施、結果のフィードバックとして研修会を行う予定にしております。感染対策に関して「うちのこのやり方はこれでいいのか」「他の施設はどのようにしているのか」「うちのここをみてほしい」等何でも結構です、直接現場を見せていただいた方がアドバイスも具体的に出来るかと思いますので、施設の枠を越え、複数の感染管理認定看護師でラウンドとフィードバックの研修会をさせていただきたいと思います。

外来・手術室・中材紹介

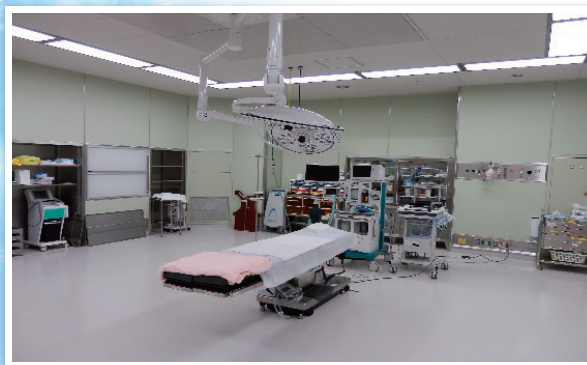
神経内科・内科・外科を中心に診療し、予約制を取り入れ待ち時間の短縮に心がけています。現在、週1回広島大学より泌尿器科・皮膚科・内分泌科・消化器科の専門医師による診療を行っています。平成27年4月から新たに呼吸器内科医による診察が週2回、整形外科・循環器科も週2回の診察となりました。また腎臓内科医師2名が加わり、外来診療が更に充実した。詳しくは外来診療担当表をご覧ください。

平成25年9月に救急外来が新しくなり、救急車から直接患者さんを受け入れることができるようになりました。平成29年には新しい外来管理診療棟が完成する予定です。

また、平成25年6月に手術室も新しく広くなり、胃・大腸・肛門疾患など消化管の手術を中心に、透析に関する内シャント術なども行なっています。外来スタッフが手術室業務を兼務するため、術前検査から患者さんに関わることが出来、手術室という非日常空間の中でも患者さんに安心感を持っていただけるよう努めています。

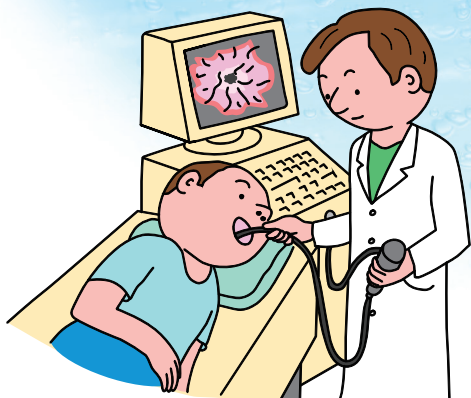


救急外来



手術室

看護研究では平成24年度から、より負担の少ない下部消化管内視鏡検査に向けて、洗浄水の温度について医師の協力のもと継続研究を行っています。



松本診療部長と外来看護師長及びスタッフ

平成27年度 新任職員のご紹介

外科医師
松本 富夫

山口県で暮らすのは人生初の松本です。山の緑、瀬戸内の青と心穏やかな素晴らしい環境ですが、松陰先生を見習い「恐れず、怯まず、囚われず」の精神で参ります。さざ波くらいは立てられますでしょうかね～・・・？！

神経内科医師
猪川 文朗

神経内科医として配属となりました猪川と申します。早くこちらでのやり方に慣れるよう頑張りたいと思いますので、皆様の協力やご指導お願い致します。楽しい雰囲気でお患者さんの期待に少しでも応えられるよう頑張っていけたら良いと思います。宜しくお願い致します。

神経内科医師
竹下 潤

この度柳井医療センターに勤務することになりました竹下と申します。患者さんと常に同じ目線で診療を行うことを目標にしています。まだまだ未熟な部分も多いですが、頑張りますのでよろしくお願い致します。

腎臓内科医師
若本 晃希

4月より、当院に勤務させていただいている腎臓内科医師の若本と申します。現在、外来診療と透析治療を主として様々なことを学ばせて頂いております。未だ、不慣れなことも多いですが、専門分野に留まらず、学んでいきたいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

腎臓内科医師
眞田 亜季

この度4月より腎臓内科医として勤務させて頂くことになりました。一日も早く慣れ、柳井地域の医療に貢献できるよう一生懸命がんばりたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

薬剤科長
森近 俊之

この度、岩国医療センターより転勤してきました薬剤科長の森近俊之です。明るく、元気で、それでいて常に向上心を持っているような職場にするために、精一杯頑張っていこうと考えています。どうぞよろしくお願いします。

副看護部長
河村 慈子

浜田医療センターから転勤してきました。以前から柳井医療センターへは一度赴任したいと思っていたので大変嬉しく思っています。柳井医療センターと柳井の街のよいところをたくさん見つけたいと思っています。よろしくお願いします。

業務班長
郷原 章

この度、浜田医療センターより配置換となりました。12年前にも（旧）柳井病院に勤務をしており、海と山に囲まれた風景が非常に懐かしく思います。業務の方も早く慣れるよう努力してまいります。今後とも宜しくお願い致します。

患者様より寄稿
していただきました。

闘病軍師

あっカンベエのコーナー

「旅行～旅立ちへ」

木谷善夫

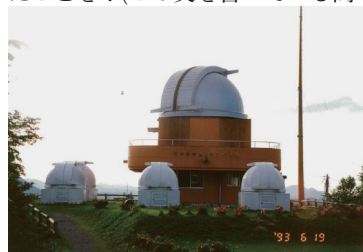
旅好きな男と女が結ばれて、二人の男の子を授かった。

子供の年の差は、三歳。旅行に行ける年齢になると家族で毎年楽しんだ。汽車なら駅名を、トンネルなら中間部の長さをクイズとして出題した。長男は、城が好き。次男は、遊具のある所。

夫婦は、ソバが食せて、ハーブの鑑賞出来る所と希望は、様々。候補地の選定については、その周りの名産景勝を含め、説明しておき、帰りのおさらいクイズの時、復習として楽しんでもらった。

普通ワゴン車を所有していた頃、旅行プラスキャンプのパターンになっていた。キャンプは、食器等仮洗いの為、帰宅後収納までに時間がかかり、妻の手を煩わした。子供も包丁を持つ手にひやひやしたが、回数を重ねる内に、何とかこなしてくれた。

気候変動で凶作の時、緊急にタイ米が輸入された。タイ米は、日本種と違って粘りが無いので飯盒の内底に米がこびり付くことなく、非常に重宝した。特に暑い夏には、水を多めに炊くとさっぱりしたご飯になった。我家では、キャンプから帰ってもタイ米がある限り、飯盒炊飯をして使い続けた。私は、決して忘れない。ゴミ箱にタイ米を捨てた多くの驕り高ぶった日本人がいたことを！(この文を書いている間中、涙が止まらなかった)



以前自分の事を晴れ男であると言っていたが、丁度この頃、長雨で米不足と重なった。1ヶ月前予約を入れていたがやはり今日も我家周辺は、小雨が続いていた。だめもとで島根の日原天文台に向かった。ところが現地は、晴れていた。三週間前落雷から復旧し、昨日天文台も通電したと言う。天文台は、ペンションと併設されており、夜を待った。天体観測が済んで、私共の後の家族も終わったようなので声を掛けてみました。「いい日に来て良かったですね」「それが～曇って何も見えませんでした」などと言う事！運命的な偶然を感じ取った瞬間でした。

その後バス釣りを始めましたが、トイレの関係で家族単位の行動ではなく、男三人の共通の趣味になってしまいました。残された妻は、友達とバスツアーに出掛ける様になりました。子供は、社会人や学生に成長し巣立って行きましたが、帰省の折、束にした釣竿を持って、楽しみに帰って来ていたようです。最後の釣りは、下松の米泉湖に行った時、斜面を降りたものの、上がる事ができなくなって携帯で息子に助けを求めたこと。親子共大変な事になっていると確認した日でありました。

旅立ちへ

怪我病気で入院した事は、一度もなかったのに山田附属病院でいきなりレッドカードを渡されALS(筋萎縮性側索硬化症)と言う聞いたこともない難病診断名を告知された。検査入院するだけで三ヶ月待たされた上話である。

今回の入院によって自分の体のことがよくわかった。CT映像を撮ってみると、頭の中に水があることが初めてわかった。足に関しては、膝から下が異常に長いことが解った。これは、自分の車椅子を作る際、役立った。



病気は、驚くほどのスピードで進行していった。職場でもよく転倒することが多くなり、一刻一秒を争う所では不具合を生じる為、上司に相談し早期退職することとした。難病指定の介護スタッフが、緊急に集められ、家の改修から協議が始まった。ケアマネジャーのKさん(途中転勤にて交代)、施設担当は、いつもエネルギッシュな「ゆとり工房」H氏、リハビリ担当は、お寺さんと間違えられた経験のあるM先生、三者による協議が続く。車椅子で車に乗り込む件、狭い浴室での入浴の件、布団からベッドへの変更の件。車には、実費で手動運転装置を取り付けた。フォークリフトのように片手でハンドルがクルクル回った。しかし段々重くなり、ついには、助手席の妻の手を借りないとカーブが切れなくなったので、運転は止めることにした。その反動か手は、全く動かなくなってしまった。

ケアマネさんの転勤後、更にスタッフが集まった。まるで歯科衛生士のように歯をきれいにしていただいた訪問看護師のKさん、爪切ってヤスリを掛け直す必要のない特技をお持ちの男性ヘルパーステーションアトラスのOさん。特にOさんには、ベッドから狭い浴室までおんぶで運んで、入浴の介助をして貰いました。

自宅療養中、段々水も食事も受けつけなくなり、訪問医による点滴を受けるようになりました。夜呼吸が苦しくなったので、妻に救急車を呼ぶよう頼みましたがなかなか呼んでくれませんでした。それは、そのはず二日前の真夜中に呼んで大騒ぎした割りに大した回復が、見られなかったからです。外は、真冬で救急車の人は、知り人。

しかし今回は、受け入れ先がなかなか決まらない模様。やっとのことで徳山中央病院へ搬送された。胸は、苦しかったが頭は、意外と鮮明で言動も最初から思い出される。「私は、女医ですが本日のチームリーダーを務めます。今御主人は、微弱ですが自発呼吸をされています。このままの状態では、いずれ呼吸は、止まります。私共は、最善の救命処置を施します。処置は、通常行う気管切開と人工呼吸器のセッティングです。どうされるか早急に決めて下さい。」私は、妻に普段から処置はしないでいいと言ってきた。その内意識は、遠くなり気が付いた時には、生きていた。ALSの平均余命は、5年と聞いているので、まさにその時だったのかも知れない。人工呼吸器が付いたが声は、失われた。コミュニケーションは、文字盤の使用である。ところが急性期病院の為、手作り文字盤もラ行が抜けたりして、意思疎通に苦労した。それから胃ろうの手術を受けた。柳井病院の空きベットを確認し、徳中の救急車で転院搬送された。医師と看護師が1名ずつ同乗された。

当病院では、スタッフ皆様方の手厚い看護のお陰で、経過も順調であります。おまけに連載文を書くチャンス(リハビリの小森園先生に)与えて頂き感謝しております。

現在私の体は、手の指しか動きません。指は、変形して二年前から筆記具等持てません。この原稿は、パソコン入力(伝の心)していますが、一日三行がやっとです。私は入力のみで、接続等一切は、妻がやってくれないと何もできません。妻は、私が病気になってから運転免許を取りました。自動車学校でいくら経費がかかったのか聞いてもそれは、聞かないほうがいいとまだに教えてくれません。人生50を超えると持病の一つや二つは、持っているもの。毎日休みなしで来てくれます。私は、結婚する時、ご両親の前で一人娘さんを一生幸せにすると誓いました。ところが今では、私の方が幸せにしてもらっています。苦渋の決断を迫られた時は、さぞかし苦しかったろうと思います。

今は、指や、眼球、舌等が動いてくれますが、いずれTLS(完全封じ込め)状態になった時には、どうしたらよいのか不安にかられます。医学の進歩を期待しつつ、二人で幸せになるように望んでいます。(つづく)

※次回で最終話にしたいと考えます。貴重な経験談をお持ちの方バトンタッチしましょう。実は、ネタ切れなんです。

外 来 診 療 担 当 表

平成27年5月1日現在

 国立病院機構柳井医療センター

		月	火	水	木	金	備 考
内科(消化器・一般)		—	松本 信夫	—	松本 信夫	松本 信夫	
神 経 内 科	初 診	宮地 隆史	福場 浩正	猪川 文朗	山崎 雅美	竹下 潤	
	再 診	猪川 文朗	猪川 文朗	宮地 隆史	宮地 隆史	福場 浩正	
	再 診	福場 浩正	—	上利美智子	竹下 潤	山崎 雅美	
外 科	初 診	住元 了	竹本 将彦	住元 了	池田 政宣	松本 富夫	火・木曜日 午後手術日
	再 診	池田 政宣	松本 富夫	田村 泰三	田村 泰三	安澤 紀夫	
	再 診	竹本 将彦	—	安澤 紀夫	竹本 将彦	—	
整 形 外 科		—	—	露口 勇輔	好川 真弘	—	
循 環 器 内 科		西樂 顕典	—	小田 望	—	—	
呼 吸 器 内 科		—	高橋 広	—	—	宮本真太郎	
内科(肝・胆・脾・消化器)		福原 崇之	—	—	—	—	
内科(糖尿病・内分泌)		—	—	—	—	大久保博史	
内 科 (腎 臓)						若本 晃希 眞田 亜季	
内 科 (内 視 鏡)		松本 信夫 福原 崇之	—	松本 信夫	第1・3週 中村 松美	第2・4週 田丸 弓弦	
皮 膚 科		—	第1・3・4週 鼻岡 佳子 第2週 森桶 聡	—	—	—	午前のみ
泌 尿 器 科		広大医師	—	—	—	—	午後のみ

※発達療育相談外来(随時 受診には事前予約が必要です)

〒742-1352 山口県柳井市伊保庄95 独立行政法人国立病院機構柳井医療センター

電 話 0820-27-0211 (代 表)

外来受付時間

F A X 0820-27-1490 (連携室)

8時30分～12時00分

メー ル renkei@yanai.hosp.go.jp

出張・休暇等の理由により、担当が変更となる
場合がありますのでご了承ください。

H P http://yanai-hosp.jp/